



## 「新年のお手紙」

仙北市長 門脇光浩

新年を迎えました。市民の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。

宿題や部活が気がかりな子どもたち、年始特番のテレビぐらいは観ようと考えている受験生、友達や恋人との再会を楽しみにしている若者もいれば、どこにも出かけないで、家に閉じこもるお父さんやお母さんも多いと思います。いやいや、それどころではなく、お正月も仕事などの工面で頭がいっぱいだったり、病気やケガの養生に懸命だったり、ご親族のご不幸で大変な皆さんがおいでかも知れません。

毎日が「満ち足りています。何も望みません」と言う方は、珍しい存在です。たとえ皆さんの隣人が、どんなに幸せそうに見えても、度合いの違いこそあれ、心配の種や悩み事を抱えています。

格好良くは生きられません。全てが上手くいくこともありません。現状を少しでも好転させるには、もがくしかないと思っています。苦悩は、“解決に向けた道のり”に付き物の痛みです。

課題の存在を他人のせいにはしないこと、自身の行い、努力の仕方を反省することが肝心です。これは故郷の「まちづくり」にも言えることです。世界的不況を口実にしていないか、予算がないと言い訳をしていないか、新米市長だからと言う甘えはないか、自問自答の毎日が続いています。

相田みつをさん(書家・僧侶)の作品で、大好きな言葉があります。

やれなかった  
やらなかった  
どっちかな

いつも、背中を押してくれる教えです。

「まちづくり」の姿は幾つあってもいいと思います。ち密な計画も大切ですが、成果を狙い過ぎて、足踏みしている余裕はありません。走りながら考えるスピード感、一度に二兎も三兎も追う貪欲さだって必要です。困難な課題に期限付きで立ち向かってこそ、解決への加速度は増します。だから「まず、やってみよう」がモットーです。

皆さんにとっても、故郷にとっても、前進の年となることをご祈念いたします。